

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主編】/(分野)						
H030S104		現代社会と福祉Ⅱ(Contemporary Society WelfareⅡ)				概論系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1	福祉健康科学部	後期		氏名 三好慎之 E-mail miyoshi-yoshiyuk@olta-u.ac.jp 内線 7696						
授業の目的は、社会福祉の理念および実践が社会の成熟と人権意識の高まりによって発展し、施策（制度）として形成された社会福祉を学習することにある。また、少子・高齢社会やグローバリズムの進展によって、社会構造が大きく変動していくなか、現代社会における社会福祉は、あらたな局面に直面している。本講義の第二の目的として、転換期にある日本社会の実態をグローバリズム、ローカリズムの視点でとらえ、現代社会に希求される社会福祉の実践や施策を検討する。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1 現代社会の問題、課題を説明できる。							○ ○					
目標2 現代社会における社会福祉制度・実践の潮流を説明できる。							○ ○ ○ ○					
目標3 学修で修得した知識を活用することができる。							○ ○ ○ ○					
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 オリエンテーション 社会福祉の理念												
2 家族の変容と社会福祉												
3 日本社会における福祉職の形成過程												
4 保育士に求められる専門性												
5 介護職に求められる専門性												
6 専門職の課題と制度対応												
7 現代の社会福祉法制度体系												
8 子育て支援と社会福祉												
9 介護への支援と社会福祉												
10 社会福祉と地域の変貌												
11 社会福祉行政と社会福祉施設												
12 社会福祉における相談援助と利用者保護												
13 社会福祉と権利擁護												
14 諸外国における社会福祉の動向												
15 専門職からみた社会福祉の課題と展望												
ラーニング	A:知識の定着・確認	○ ミニッツ・ペーパー。	工夫		その他の							
	B:意見の表明・交換	○	動画を活用する。									
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造	○										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	テキストや配布資料及び参考文献等から、用語の理解、法・制度、歴史的背景を学修する。(15h)										
	事後学修	テキストや配布資料及び、参考文献などを通じて復習し、学修した内容を深める。(15h)										
教科書	三好慎之編(2015)『はじめての社会福祉論』法律文化社											
参考書	1.一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座4.社会福祉の原理と政策』中央法規											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	試験	60%	○	○								
	レポート課題	40%	○	○	○							
注意事項	私語は厳格に禁じます。											
備考												
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)										
AH42G011		社会理論と社会システム(Social Theory and Social System)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1	福	前期		氏名 大杉 至											
						E-mail ohsugi@oita-u.ac.jp 内線 7527											
授業の概要 社会は諸個人とその関係で成り立っているといっても、そのとらえ方は様々である。その方法論を追究してきたのが社会学であり、そこから学ぶべきものは多い。そうした基礎的理論を理解するとともに、現代の社会的課題の基本を把握することを目指す。																	
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)											
目標1	社会学の基本的な考え方を説明できる。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標2	社会的なデータを見る際の注意点を述べることができる。					○					○						
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 社会学の成立 (A. コント)																	
2 M. ウェーバーの社会学方法論 (行為理論と理解社会学)																	
3 M. ウェーバーの社会理論 (資本主義成立論)																	
4 マルクスの社会把握の方法論 (社会構成理論と史的唯物論)																	
5 マルクスの社会理論 (資本主義成立論)																	
6 デュルケムの社会学方法論 (「方法の規範」より)																	
7 デュルケムの社会理論 (逸脱行動論と社会問題)																	
8 現代社会と自殺																	
9 デュルケムの「自殺論」																	
10 集団の理論																	
11 官僚制と官僚主義																	
12 家族の分類、機能																	
13 家族の変容																	
14 現代社会の労働																	
15 女性と労働																	
ラーニング 目標	A: 知識の定着・確認					○ 授業内容に関する問いを設定した小テストを適宜行う。					工 夫 其 他 の						
	B: 意見の表現・交換																
	C: 応用志向																
	D: 知識の活用・創造																
時間外学習 の内容と時 間の目安	準備 学修	シラバスの内容に沿って、次回の内容をある程度把握しておく (1h)。															
	事後 学修	授業で理解できなかったことを書籍、ネット等で調べる (1h)。															
教科書	なし。適宜プリントを配布する。																
参考書	なし																
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10					
	小テスト	20%	○														
	最終テスト	80%	○	○													
注意事項	なし																
備考	なし																
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)					
H030S106		福祉行政と福祉計画(Finance, Administration and Plan of Social Welfare)					制度政策系					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員						
選択	2	2	福祉健康科学部	前期		氏名 飯田 隆次 E-mail 内線						
授業の概要		我が国の社会福祉及びその上位概念である社会保障について概説するとともに、社会福祉基礎構造改革などを踏まえた行政の実態体制（国と地方との関係、財源、組織及び団体、専門職など）について学ぶ。 また、介護保険制度などの個別の制度内容や、福祉計画の意義、目的、主体、方法などについて理解を深める。										
具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)										
目標1	社会保障のさまざまな制度を理解し、自らの生活と関係づける。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	現在の行政と財政の仕組みを理解し、その課題、将来の方向性を提案できる。			○	○							
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 (福祉行政) 序論：福祉と制度、社会保障の変遷												
2 (福祉行政) 序論：福祉計画の概要												
3 (福祉行政) 行政の骨格、社会福祉と法制度、福祉行政の組織、社会福祉基礎構造改革												
4 (福祉行政) 国・地方における社会保障関係費の動向、民間社会福祉事業の財源等												
5 (福祉行政) 社会福祉基礎構造改革、専門諸機関												
6 (福祉行政) 介護・高齢者福祉制度												
7 (福祉行政) 子ども・子育て支援制度												
8 (福祉行政) 障害者福祉制度												
9 (福祉行政) 生活保護と低所得者対策												
10 (福祉行政) 年金、医療制度												
11 (福祉計画) 福祉計画の目的と意義												
12 (福祉計画) 福祉計画の基本的視点、福祉計画の策定過程と留意事項、ニーズ把握と評価												
13 (福祉計画) 老人福祉計画・介護保険事業計画、障害者基本計画、障害福祉計画												
14 (福祉計画) 次世代育成支援行動計画、子ども・子育て支援事業計画、地域福祉計画												
15 (まとめ) 社会保障を巡る最近の動向												
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	○	ミニッツペーパー（授業のポイント、疑問点、理解度等）の記入、ディスカッション				工夫 その他					
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学習	配付資料、行政機関のホームページや新聞掲載の関係情報を必要に応じて予習する（23h）。										
	事後 学習	授業で学習した内容についての復習と課題の研究を行う（22h）。										
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントを使用する。											
参考書	社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座10「福祉行政と福祉計画」、中央法規出版（株）、2017年2月。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	最終課題（論文試験）	80%	○	○								
	ミニッツペーパー（振り返りシート）	20%	○	○								
注意事項												
備考												
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
H030S105	社会保障論Ⅱ(Social Security Ⅱ)					制度政策系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員						
選択	2	2	福	後期		氏名 松本由美 E-mail matsumoto-yumi@oita-u.ac.jp 内線 8097						
授業の概要	この授業では、日本の社会保障制度の具体的な仕組みと改革方策について学ぶとともに、政策課題について考えるための多角的な視点を身につける。そのために、社会保障の歴史と社会保障制度(年金制度、医療保険制度、介護保険制度)、民間保険制度、諸外国の社会保障制度について学習し、理解を深める。それを踏まえて、社会保障制度の政策課題や今後のあり方を考える。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1	社会保障の各制度について具体的に説明することができる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	社会保障制度の歴史と近年の改革動向について理解し、説明することができる。	○										
目標3	社会保障制度の課題について考え、今後のあり方について自らの考えを述べるることができる。	○										
目標4				○								
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	社会保障の政策課題											
2	日本の社会保障の歴史(確立期(～1980年代))											
3	日本の社会保障の歴史(拡充期・改革期(1970年代～))											
4	年金制度の体系・財政方式											
5	国民年金制度											
6	厚生年金保険制度											
7	年金制度の課題と改革動向											
8	医療保険制度の体系と医療提供体制											
9	健康保険制度											
10	国民健康保険制度											
11	高齢者医療制度											
12	医療保険制度の課題と改革動向											
13	介護保険制度											
14	公的保険制度と民間保険制度の関係											
15	諸外国における社会保障制度											
ラ イ ク エ ン テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認 ○知識・理解の確認のための小テスト等を実施する。 B:意見の表現・交換 ○ C:応用志向 D:知識の活用・創造					工 夫 其 他 の 学 習 を 補 足 す る た め 、 資 料 や 新 聞 記 事 等 を 活 用 す る。						
時間外学習 の内容と時 間の目安	準備 参考書等に基づき、必要に応じて予習を行う(15h)。 事後 毎回、講義内容の復習を行う、知識や理解を定着させておく(30h)。											
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントを使用する。											
参考書	最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座『7 社会保障』中央法規、2021年。 土田武史編著『社会保障論』成文堂、2015年。											
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	学期末試験	70%	○	○	○							
	授業への参加の積極度	30%	○									
注意事項												
備考												
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	
H030S102		地域福祉論Ⅱ(Local Welfare Ⅱ)				社会福祉分野系	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員	
選択	2	2	福祉健康科学部	後期		氏名 川村岳人 E-mail g-kawamura@oita-u.ac.jp 内線 6086	

授業の概要
この授業のねらいは、地域福祉を推進するために活用・調整・開発すべき社会資源や具体的な方法を理解し、地域福祉推進のための基礎的知識を得ることです。地域福祉論は近年の社会福祉理論の展開・発展の中でその主要な位置を占めるようになってきていますが、地域福祉の内的規定要件としての「自治」の面でも、外的規定要件としての「自治制」の面でも、いまだに課題が多いのが現状です。そこで、本講義では地域福祉を取り巻く制度や多様な担い手による地域福祉活動の検討を通じて、地域福祉を推進する方法を考えます。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	地域福祉に関連する制度が地域福祉に与える影響を理解する。			○	○								
目標2	地域福祉を地方自治と関連づけて捉え、地方自治への連動を志向した地域福祉の推進方法を理解する。			○	○	○							
目標3	地域福祉が直面している課題を、構造的な要因と関連づけて理解する視角を習得する。			○	○		○						
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													

授業の内容

- 地域福祉と地方自治
- 地域福祉と制度(1) 地方行財政制度
- 地域福祉と制度(2) 介護保険制度
- 地域福祉の推進政策
- 地域福祉の財源
- 地域福祉の推進方法(1) ネットワーキング
- 地域福祉の推進方法(2) 社会資源の開拓
- 地域福祉の推進方法(3) ニーズ把握の方法
- 地域福祉の推進方法(4) 地域包括ケアシステムの構築
- 地域福祉の推進方法(5) 福祉サービスの評価
- 地域福祉の援助技術(1) コミュニティワーク
- 地域福祉の援助技術(2) コミュニティソーシャルワーク
- 地域福祉計画
- 地域福祉とローカル・ガバナンス
- これからの地域福祉を考える

ラ イ ク ニ ン グ	A:知識の定着・確認	毎回アクションペーパーに質問・感想を記入させ、必要に応じて次の講義でコメントする。	工 夫 の 配 分	授業開始時等にアイスブレイクを行う。
	B:意見の表現・交換			
	C:応用志向			
	D:知識の活用・創造			

時間外学習
準備 配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する (15h)。
事後 配付資料や参考文献等を用いて復習する。

教科書
講義内容に即したプリントを配付する。

参考書
講義内容に関連する図書を適宜紹介する。

成 績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験	100%	○	○	○							

注意事項
私語など講義の妨げとなるような行為は禁止する。

備考
なし

リンク
URL

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)					
H030S203		児童・家庭福祉論(Children, Young people and family welfare)					社会福祉分野系					
*大分を創る科目												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2	福祉健康科学部	後期		氏名 柴留里美 E-mail .eidome@oita-u.ac.jp 内線 6088						
授業概要 ①子どもが権利の主体であることを踏まえ、子ども・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。② 児童福祉の歴史と児童福祉の発展と制度の発展過程について理解する。③ 子どもや家庭福祉に係る法制度について理解する。④ 子どもや家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉上の役割について理解する。⑤ 子ども・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。												
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照)												
目標1	子ども家庭福祉の理念、制度施策、実践のあり方など、実践に必要な基本的かつ包括的な内容や視点について理解し説明できる。	☐										
目標2	子ども家庭福祉実践に必要な技術や倫理について理解し説明できる。	☐										
目標3	子どもや保護者等のニーズに対応する社会資源について理解し説明できる。	☐										
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 児童家庭福祉の理念・子ども・家庭の定義と権利												
2 子ども・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境												
3 子どもの権利擁護と児童家庭福祉												
4 児童家庭福祉の歴史・制度と実施体制												
5 子ども・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割												
6 子育て支援サービス・保育サービス・母子保健												
7 児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス												
8 子どもの貧困対策・ひとり親家庭等の家庭支援												
9 社会的養護												
10 障害児支援												
11 少年非行等への対応												
12 グループ発表 子ども虐待防止												
13 グループ発表 社会的養護												
14 グループ発表 障害児・インクルーシブ												
15 グループ発表 少年非行への支援												
ラーニンググループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	☐ グループディスカッションを多用する。また、関心のあるテーマについてグループで調べ、問題解決のための新たな方法を開発する。 ☐ ☐ ☐	工夫 その他	ショートライティングによって、理解度を確認し、質疑応答を行う。								
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	① 次回のトピックについて調べる (10h)。 ② ショートライティングを書く (10h)										
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントを使用する。											
参考書												
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	ショートライティング	30%	☐									
	グループ発表	70%	☐	☐	☐							
注意事項	なし											
備考	なし 【地域創生教育科目】											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)													
H030S204		障害児・者福祉論(Social welfare for disabled people)					社会福祉分野系													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員														
選択	2	2	福祉健康科学部	後期		氏名 滝口 真														
						E-mail 内線														
授業の概要 障害の概念と特性を踏まえ、障害児・者とその家族の「生活を包括的に支援する」という視点に立ち、障害児・者を取り巻く社会環境について理解する。また、障害児・者福祉の歴史と障害者の変遷に加え、障害児・者の法制度と「多職種連携による支援の仕組み」について理解する。さらに、障害児・者に生じる生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる「知識・技能・価値」の修得および適切な支援のあり方を理解する。																				
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)														
目標1	障害概念と特性について理解できる。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
目標2	障害児者とその家族の生活実態とこれを取り巻く社会環境について「生活を包括的に支援する」視点について理解できる。																			
目標3	障害児者福祉の歴史と法制度および「関係機関と専門職」の役割について述べるができる。																			
目標4	障害児者とその家族等に対する支援の実践について、専門職としての「知識・技能・知識」について説明ができる。																			
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 障害児者福祉を学ぶ事の意義、国際生活機能分類(ICF)と障害者の定義と特性(ICIDHからICFへ、ICFの構造、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害等)																				
2 障害児者の生活実態(地域移行、居住、就学・就労、高齢化、介護需要、障害者の芸術・スポーツ等)																				
3 障害児者を取り巻く社会環境(バリアフリー、コンフリクト、障害者虐待、哀亡後問題、きょうだいへの支援等)																				
4 障害児者福祉理念と障害者の変遷及び障害児者処遇の変遷(ソーシャルインクルージョンまでの変遷、偏見と差別、障害者関係法変遷、障害児者の処遇史)																				
5 障害者の権利条約と障害者基本法及び障害児者福祉制度の発展過程(障害者権利条約の概要、障害者基本法の概要等)																				
6 障害者総合支援法(障害者総合支援法概要、障害者サービス及び相談支援、障害支援区分及び支給決定、自立支援医療、補装具、地域生活支援事業、障害福祉計画等)																				
7 身体障害者福祉法と知的障害者福祉法(身体障害者福祉法と知的障害者福祉法の概要、身体障害者手帳と療育手帳、各福祉法に基づく措置等)																				
8 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律と児童福祉法(精神保健福祉法概要・入院形態と処遇、対象手帳、児童福祉法の障害児支援概要、発達・家族・地域支援等)																				
9 発達障害者支援法と障害者虐待防止法(発達障害者支援法概要、発達障害者支援センターの役割、障害者虐待防止法概要、障害者虐待未然防止、通報義務、早期発見等)																				
10 障害者差別解消法の概要と高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー法)の概要(合理的配慮、施設設備管理者等の責務)																				
11 障害者雇用促進法の概要と国等による障害者就労施設等からの物品等に関する法律(事業主の責務、法定雇用率、障害者優先調達推進法の概要、障害者就労施設等)																				
12 障害児者と家族等の支援における関係機関の役割(国・都道府県・市町村、障害者に対する法制度に基づく施設・事業所、特別支援学校、ハローワーク等)																				
13 障害児者と家族に関連する専門職等の役割(医師・看護師・理学療法士等、相談支援専門員・サービス管理責任者等、ピアサポーター、SSW、住民・ボランティア等)																				
14 障害領域における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割並びに障害者と家族等に対する支援の実践(多職種連携を含む)(地域相談支援、就労支援、居住支援等)																				
15 全体総括と展望、これからの障害児者福祉																				
フィードバック	A:知識の定着・確認					B:意見の表現・交換					C:応用志向					D:知識の活用・創造				
	○小レポート等の学習成果物を作成して下さい。グループによる意見交換を行います。授業の最後にリアクションペーパーの提出をお願いします					○					○					○				
時間外学習の内容と時間の目安		準備学習 テキストおよび配布資料を精読し、理解が難しい用語を事前に調べておきましょう(30分)。 事後学習 授業で学習した内容を振り返るために小テストおよび配布資料を用いて復習を行いましょう(30分)。																		
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 共通科目 ⑤『障害者福祉』、中央法規出版、2021年(各自最新版を準備下さい。)																		
参考書		滝口 真・堀永良逸共著『障害者福祉論 ―障害者に対する支援と障害者自立支援制度―』、法文文化社、2010年(購入の必要はありません。適宜必要な箇所を単元に応じて紹介します。)																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	小レポート	15%	○	○	○	○														
	発表報告	15%	○	○	○	○														
	期末テスト	70%	○	○	○	○														
注意事項		席は開隔をあけてソーシャルディスタンスに心がけましょう。																		
備考		疑問などが生じたら、その都度、質問して下さい。																		
リンク		URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																										
H020S201		高齢者福祉論Ⅰ(Elderly person welfare theoryⅠ)				社会福祉分野系																																																																																																																										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																																																																																																																										
選択(社会福祉実践コースは必修)	2	1	福祉健康科学部	後期		氏名 工藤 修一 E-mail takanine@oita-u.ac.jp 内線 7947																																																																																																																										
授業の概要 周知のとおり21世紀のわが国は、高齢者が人口の多くを占めることになる。高齢者「問題」と称されるように、人口の高齢化(少子化)は社会にさまざまな影響を及ぼす。ここでは少子高齢化社会とはどのような社会なのか、また、高齢社会を「幸福社会」にするためにはどうすればいいかを考えていく。																																																																																																																																
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 少子高齢社会の全体像を説明できる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 高齢者の生活課題を説明できる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 介護保険の全体像を説明できる</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 少子高齢社会の全体像を説明できる。	○										目標2 高齢者の生活課題を説明できる。	○										目標3 介護保険の全体像を説明できる	○										目標4											目標5											目標6											目標7											目標8											目標9											目標10										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																						
目標1 少子高齢社会の全体像を説明できる。	○																																																																																																																															
目標2 高齢者の生活課題を説明できる。	○																																																																																																																															
目標3 介護保険の全体像を説明できる	○																																																																																																																															
目標4																																																																																																																																
目標5																																																																																																																																
目標6																																																																																																																																
目標7																																																																																																																																
目標8																																																																																																																																
目標9																																																																																																																																
目標10																																																																																																																																
授業の内容 1 少子高齢社会と社会問題 2 高齢者の特性(身体機能) 3 高齢者の特性(精神機能) 4 高齢者並びに家族の生活課題(経済的課題) 5 高齢者並びに家族の生活課題(社会関係の課題) 6 高齢者並びに家族の生活課題(介護の課題) 7 高齢者保健福祉の発展と現行制度の体系 8 介護保険法概説(財政) 9 介護保険法概説(サービス) 10 介護保険法概説(要介護認定) 11 介護保険概説(利用手続き) 12 ケアマネジメント外部講師講演(認知症介護者) 13 ケアプラン演習 14 外部講師講演(認知症介護者) 15 海外の高齢者施策																																																																																																																																
ラーニング	A:知識の定着・確認 ○ 30分ごとに講義を区切り質問を受け付けるとともに、当該単位の内容についての考察を求める。 B:意見の表明・交換 ○ C:応用志向 D:知識の活用・創造					工夫	その他																																																																																																																									
時間外学習の内容と時間の目安	準備 介護者の手記(3h) 事後 少子高齢化が「自分」(≠職業人としての自分)に与える影響を予測する(3h)																																																																																																																															
教科書	使用しない。																																																																																																																															
参考書																																																																																																																																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																																				
	小テスト3回	100%																																																																																																																														
注意事項	双方向的な講義展開であり、時間中は学生の発言を多く求める。																																																																																																																															
備考	なし																																																																																																																															
リンク	URL																																																																																																																															

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の实務 経験	医療ソーシャルワーカー（7年。）

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H030S202		高齢者福祉論Ⅱ(Elderly person welfareⅡ)				社会福祉分野系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	課・原	担当教員						
選択	2	2	福祉健康科学部	前期		氏名 工藤修一 E-mail takamine@oita-u.ac.jp 内線 7947						
授業の概要 扱う素材は介護保険の制度論であるが、ねらいはこの理解に限るものではない。社会保障制度に限らず制度は、トレード・オフを必然とし、すべての人に有利に働くものではない。制度設計の裏側(根拠や事情)を考察することを通して、介護保険を越えて社会保障制度を見る目(意義と限界)を養う。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						
目標1	介護保険サービスについて実践的に説明できる。					1	2					
目標2	各条項の目的を理解できる。					3	4					
目標3	各条項についてメリットとデメリットを判別できるようになる。					5	6					
目標4						7	8					
目標5						9	10					
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 介護保険法概説(a)(目的・被保険者・保険事故・財源構成など)												
2 介護保険法概説(b)(利用手続き・サービス種類・介護認定審査会・審査請求など)												
3 要介護認定の位置づけ・手続きとロジック												
4 要介護認定演習(ロジックを用いて手作業で一次判定を算定)												
5 介護保険でのケアマネジメントの全体像と流れ												
6 アセスメントの方法												
7 ケアプランの方法												
8 事例を活用してのアセスメント・ケアプラン演習												
9 介護報酬と給付管理の方法												
10 事例を活用しての給付管理演習												
11 各専門職・組織の役割とネットワーク												
12 介護予防の重要性と方法施設サービスの機能と理解												
13 包括的支援事業の目的と内容												
14 地域包括支援センターの機能												
15 介護予防・日常生活総合事業の目的と内容												
ラーニング 目標	A:知識の定着・確認		○要介護認定及びケアプランについては、実際の事例を用いてロールプレイを実施。		工夫 その他							
	B:意見の表現・交換		○									
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習 の内容と時間 の目安	準備 学習	保険原理と機能、および限界について(3h)										
	事後 学習	介護予防の限界と倫理的課題について(3h)										
教科書	使用しない。											
参考書	指定しない。											
成績評価 の方法 及び 評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト(3回)	100%	○	○	○							
注意事項	社会保障などの講義も活用して「保険とは何か」、また「民間保険と社会保険の相違」について理解しておくこと。											
備考	講義中、適宜みなさんの意見を求め、また質問を受け付ける。ただ「聴くだけ」ではなく、能動的な姿勢で臨むこと。											
リンク	URL											

担当教員の 火務経験の有無	○
教員の実務 経験	医療ソーシャルワーカー（7年）

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																										
H030S205		公的扶助(Public Assistance)				社会福祉分野系																																																																																																																										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履修限	担当教員																																																																																																																										
選択	2	2	社福	前期		氏名 三好慎之 E-mail miyoshi-yoshiyuk@olta-u.ac.jp 内線 7886																																																																																																																										
概要 本講義は、現代の貧困問題とそれに対する施策としての公的扶助の原理や、制度について学ぶことを目的とする。また、国民生活の安全網としての生活保護の問題・課題を検討することにある。そのため、まず、2000年代に入って社会的に注目された日本の貧困問題を分析し、その実態を理解する。次いで、救済対策としての公的扶助の役割や原理を学ぶ。そのうえで、日本の生活保護制度の仕組みを学ぶとともに、運用場面における諸問題について検討を深める。以上、公的扶助の実態を踏まえることから、日本社会が直面する貧困問題を考える。																																																																																																																																
具体的な到達目標 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 「貧困問題」を分析する視点を修得する。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 公的扶助の実態を理解し、説明できる。</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 生活保護制度の仕組みや実施体制を説明できる。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標4 貧困問題をふまえて生活保護の改革課題を提示することができる。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 「貧困問題」を分析する視点を修得する。	○										目標2 公的扶助の実態を理解し、説明できる。		○	○								目標3 生活保護制度の仕組みや実施体制を説明できる。			○	○							目標4 貧困問題をふまえて生活保護の改革課題を提示することができる。			○	○	○						目標5											目標6											目標7											目標8											目標9											目標10										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																						
目標1 「貧困問題」を分析する視点を修得する。	○																																																																																																																															
目標2 公的扶助の実態を理解し、説明できる。		○	○																																																																																																																													
目標3 生活保護制度の仕組みや実施体制を説明できる。			○	○																																																																																																																												
目標4 貧困問題をふまえて生活保護の改革課題を提示することができる。			○	○	○																																																																																																																											
目標5																																																																																																																																
目標6																																																																																																																																
目標7																																																																																																																																
目標8																																																																																																																																
目標9																																																																																																																																
目標10																																																																																																																																
授業の内容 - 現代日本の貧困問題 - 貧困の概念 - 貧困の把握と測定 - 戦前日本社会における国民生活と貧困問題 - 戦後日本社会における国民生活の状況と社会保障の役割 - 高度経済成長と公的扶助の展開 - 日本の貧困問題と貧困対策の変化 - 生活保護制度の成立と展開 - 生活保護の目的と原価 - 生活保護制度の仕組みと保護基準 - 生活困窮の実態 - 生活保護の実施体制と援助の方法 - 生活保護の動向と特徴 - 生活保護改革と生活困窮者自立支援制度 - まとめ																																																																																																																																
ラーニング	A:知識の定着・確認 ○ B:意見の表現・交換 ○ C:応用志向 D:知識の活用・創造 ○				工夫	その他の																																																																																																																										
時間外学習の内容と時間の目安	準備 参考文献や辞典、配布資料から、用語の理解、法制度、歴史的背景を予習する。(15h) 事後 配布資料及び、参考文献などを通じて復習し、学習した内容を深める。(15h)																																																																																																																															
教科書	指定しない。																																																																																																																															
参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)『最新社会福祉士養成講座4 貧困に対する支援』中央法規																																																																																																																															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																																				
試験		60%	○	○																																																																																																																												
レポート		40%	○	○	○																																																																																																																											
その他																																																																																																																																
注意事項	講義では、ただ漫然と聞いていたり、知識を入れ込むだけではなく、自分の頭で理解し考えるようにしてください。また、受講生も私も講義に集中できる環境を保つため、講義の迷惑になるような私語や受講態度はしないでください。																																																																																																																															
備考																																																																																																																																
リンク	URL																																																																																																																															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)									
H030S206		就労支援サービス(Employment Support Services)					社会福祉分野系									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	1	2	福祉健康科学部	後期		氏名 中村 廣光 E-mail 内線										
授業の概要 社会福祉士の相談援助活動において必要とされる、就労支援政策や支援制度及び就労支援対象となる人々の実状について理解すると共に、就労支援に携わる組織、団体、専門職の役割や大分県における実際の活動状況について理解する。また、社会保障費の効率化の視点や就労支援を行っていく上で要請される医療・保健福祉・NPO活動等関連領域の専門職や支援者との連携のあり方についても理解し、実状を把握する。																
具体的な到達目標																
DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	我が国における、雇用・就労の実状と支援政策・制度、それに関する問題・課題を説明できる。					○										
目標2	就労支援組織・団体、専門職の実態を知り、その果たしている役割や連携の仕方を説明できる。					○										
目標3	就労に困難を抱える人々の実情や特性を理解し、それぞれに応じた支援施策や具体的方法を説明できる。					○										
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 我が国における雇用・就労の動向																
2 就労支援を必要とする人々の実状																
3 就労支援施策と制度																
4 就労支援に関わる行政機関の役割と実際																
5 就労支援に直接関わっている機関や組織の役割と実際																
6 就労支援を行う専門職とその役割																
7 就労支援における他領域の専門職、支援者との連携の方法と実際																
8 特別な支援を必要としている人々の理解と支援のポイント ～発達障害・N.E.E.T・ひきこもり～																
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
ラ	A:知識の定着・確認	○	・グループによる話し合いと意見交換					工夫 その 狙い	・複雑性の高い授業内容については、授業俯瞰シートを配布し、課題の焦点化、疑問点を解消するための質疑応答を徹底して行う。							
イ	B:意見の表現・交換	○	・専門性の高い授業内容については、ワークシートを配布し、「課題解決アプローチ学習」を行う													
エ	C:応用志向	○														
ニ	D:知識の活用・創造	○														
ン																
グ																
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学習	TVニュースや新聞記事、雑誌等を逐て、雇用・就労問題への関心を高めてください(8h)。														
	事後 学習	授業ごとに配布するテキスト資料に再度目を通し、専門用語、法・制度を十分にマスターしてください(8h)。														
教科書	使用しない。授業ごとにパワーポイント・テキスト資料、課題解決用ワークシート、授業俯瞰シートを配布。															
参考書	「産業カウンセリングハンドブック第5版」 日本カウンセリング学会監修 金子書房2000年 「障害者総合支援法がよくわかる本」 福祉行政法令研究会著 秀和システム2019年 「ひきこもり支援論」 竹中哲夫著 明石書店2010年															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	試験	80%	○	○	○											
	ワークシートの作成・提出	20%	○	○	○											
注意事項	なし															
備考	なし															
リンク	URL															

ナンバリング		検索科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H030S207		権利擁護と成年後見制度論(Human rights guarantee and Guardianship theory)				社会福祉分野系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員						
選択	2	2年	福祉健康科学部	前学期		氏名 岡田 壮平, 田中 良太 E-mail 内線						
授業概要 社会福祉サービスの利用についての相談援助の場面では、その活動と法との関連を理解することにより質の高い支援が可能になります。そのためには、憲法の基本的人権や行政法の行政手続法等についての理解が必要不可欠です。また、社会福祉基礎構造改革によって、高齢者や障害者、子育て等の福祉サービスの利用が措置制度から契約制度に転換したため、民法の契約に関する理解も必要です。本講義は、社会福祉サービスの利用における相談援助の活動に関連する法として、憲法・民法・行政法を中心に、その基本的な法律用語や法解釈、判例等について講述した上で、判断能力が不十分な人々の生活を支援する成年後見制度についての理解を深めていきます。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1 憲法・民法・行政法の基本的な法律用語について説明することができる。							○					
目標2 判例や新聞記事の内容について意見を述べるができる。							○					
目標3 成年後見制度における問題点を挙げるができる。							○					
目標4 憲法・民法・行政法の知識を、普段の生活において応用することができる。							○					
目標5 法的観点から地域や福祉の課題について分析することができる。							○					
目標6 憲法や民法、行政法、成年後見制度について、探求心をもって自発的に学習に取り組むことができる。							○					
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 ガイダンス・法学入門（相談援助活動と法との関わり）												
2 憲法（1） 憲法の意義と機能												
3 憲法（2） 基本的人権の内容とその射程												
4 憲法（3） 社会権												
5 民法（1） 民法の意義と機能												
6 民法（2） 契約												
7 民法（3） 親族・相続												
8 行政法（1） 行政法の意義と機能												
9 行政法（2） 行政手続法・行政不服審査法												
10 成年後見制度（1） 成年後見制度の意義と機能												
11 成年後見制度（2） 成年後見												
12 成年後見制度（3） 保佐・補助												
13 日常生活自立支援事業												
14 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際												
15 権利擁護活動の実際												
ラ フ ク ニ ン グ ブ	A:知識の定着・確認 ○ 事例に基づくディスカッションを行うことがある。 B:意見の表現・交換 ○ C:応用志向 ○ D:知識の活用・創造 ○					工 夫 其 他 の						
時間外学修 の内容と時間 の目安	準備 事前にトピックに関連する資料を学習する (10h) 事後 学習した内容を振り返り学習を深める (10h)											
教科書	使用しない											
参考書	社会福祉士養成講座編集委員会（編）『新・社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度（第4版）』（2016年・中央法規）											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート	100%	○	○	○	○	○	○				
注意事項												
備考	本講義は、社会福祉士試験の受験科目である「権利擁護と成年後見制度論」にも対応しているので、受験を予定している学生は受講してください。											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)									
H030S208		更生保護制度(Offenders Rehabilitation)					社会福祉分野系									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	1	2年	福祉健康科学部	後学期		氏名 甲斐祐治、比良千奈美										
						E-mail shien@saieikai-teichaku-oita.net 内線										
授業の概要 近年、障害や貧困など犯罪の社会因子が次第に明らかとなり、これへの対応が重要な課題となっている。関わり、刑務所への社会福祉士の配置や地域生活定着支援センターの創設など、ソーシャルワークの活動領域が広がってきている。本講義では、更生保護を中心に司法福祉分野の理解を深めるとともに、地域定着の実際の事例も活用しながらそこでソーシャルワーカーに必要とされる基本的技術について学ぶ。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)										
目標1	犯罪の生起要因について説明できる。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	生起要因の分析から再犯防止の方策について説明できる。					○										
目標3	再犯防止方策におけるソーシャルワーカーの役割機能について説明できる。					○										
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 犯罪の社会因子と地域生活定着支援事業について(2020年8月地方再犯防止推進計画概要、2021年4月入居支援事業概要)																
2 矯正施設における処遇と現状																
3 刑務所入所者の心理と家族心理を考える① (DVD鑑賞) レポート提出																
4 刑務所入所者の心理と家族心理を考える② (DVD鑑賞) レポート提出																
5 更生保護制度、医療観察制度の概要(保護観察・生活環境調整・仮釈放・更生緊急保護・恩赦・医療観察法)																
6 更生保護の担い手(保護観察官・保護司・更生保護施設・民間協力者)																
7 被疑者・被告人支援、被害者支援																
8 地域生活定着支援センターの援助事例を用いたグループワーク																
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
ラーニング	A:知識の定着・確認	○講義で扱う事例はすべて実際の担当ケースである。「自分だったらどのような支援をするのか」について、逐次発言を求める。					工夫 その他の									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学習	例えば、非行に遭った同級生等、触法行為をしたケースをプライバシーに留意しメモ書きを作成。(1h)														
	事後 学習	犯罪者家族の苦悩に関する文献学習(講義内で文献を準備します)(20h)														
教科書	使用しない。															
参考書	なし															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	課題レポート	100%	○	○	○											
注意事項	なし															
備考	なし															
リンク	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	社会福祉士としての臨床経験約20年
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	大分県地域生活定着支援センター職員
実務経験を いかした教 育内容	学問的なことのみを伝えるのではなく、実務で経験した事例を具体的に挙げ、支援に関わる制度的な繋がりや本人を主体とした支援のあり方等を伝えていく。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)											
H030S301		ソーシャルワークの基盤と専門職(The Foundation of Social Work Profession)					相談援助技術系											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	1年	福祉健康科学部	後期		氏名 柴留里美												
						E-mail eidome@oita-u.ac.jp 内線 6098												
授業の概要	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解し、そのジレンマを考える。																	
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ・意義・課題について述べることできる。							○	○	○								
目標2	ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について説明できる。							○	○	○								
目標3	ソーシャルワークの価値規範と倫理について述べ、自分なりの考えを付け加えることができる。							○	○	○								
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	1 社会福祉士及び介護福祉士法・精神保健福祉士法・定義、専門性・法制度成立や見直しの背景																	
2	2 ソーシャルワークの概念・ソーシャルワークの定義																	
3	3 ソーシャルワークの基盤となる考え方・原理																	
4	4 社会正義・人権尊重																	
5	5 多様性の尊重・集団的責任																	
6	6 ソーシャルワークの理念・当事者主権とは																	
7	7 尊厳の保持・権利擁護																	
8	8 権利擁護・アドボカシー																	
9	9 自立支援・ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーション																	
10	10 ソーシャルワークの形成過程																	
11	11 ソーシャルワークの形成過程・慈善組織協会・セツルメント運動																	
12	12 ソーシャルワークの形成過程・医学モデルから生活モデルへ・ソーシャルワークの統合化																	
13	13 ソーシャルワークの倫理綱領—社会福祉士・精神保健福祉士																	
14	14 倫理的ジレンマとは																	
15	15 倫理的ジレンマの考察																	
ラ イ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定義・確認	○	・グループディスカッション・口頭発表を通じて、単なる講義ではない										エ 夫 、 そ の 他 の	・学びの到達度を把握するために、毎回の講義終了時にショート・ライティングを課す。				
	B:意見の表現・交換	○	問題解決型の学修を目指す。															
	C:応用志向	○																
	D:知識の活用・創造	○																
時間外学修の内容と時間の目安	準備	次回のトピックについて調べ学習をする (10h)																
	学修	口頭発表の準備をする (10h)																
	事後	ショートライティングを書くことで復習を行う (10h)																
	学修																	
教科書	指定しない																	
参考書	社会福祉士養成講座編集委員会(編)『ソーシャルワークの基盤と専門職』(中央法規)2020年																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	ショートライティング	20%	○	○	○													
	口頭発表	80%	○	○	○													
注意事項																		
備考	なし																	
リンク	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)									
H030S301		相談援助の基盤と専門職Ⅰ(The Foundation of Social Work ProfessionⅠ)					相談援助技術系									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1	福祉健康科学部	後期		氏名 栄留風美										
						E-mail eidome@oita-u.ac.jp 内線										
授業の概要	ソーシャルワーカーの役割・意義やソーシャルワークの概念について、ソーシャルワークの形成・発展史を通して理解を深める。さらに、今日的な議論としてのソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術についての理解を軸として、総合的・包括的な援助、権利擁護・アドボカシーのあり方等について理解する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)									
目標1	ソーシャルワークの歴史的展開を理解することができる。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	ソーシャルワークの今日的意義や対人援助者の役割について理解することができる。						○									
目標3	ソーシャルワークの価値や倫理について、他職種との関連の上で理解することができる。							○								
目標4	ソーシャルワークの基本的な方法について、その理論的基盤を理解することができる。							○								
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 社会福祉士の役割と意義																
2 ソーシャルワークの歴史的展開① ―ソーシャルワークの源流、前史																
3 ソーシャルワークの歴史的展開② ―基礎確立期・発展期																
4 ソーシャルワークの歴史的展開③ ―現代のソーシャルワーク																
5 現代社会と地域福祉、コミュニティ・ソーシャルワークの関係																
6 ソーシャルワークの概念と定義																
7 ソーシャルワークの構成要素―エンパワメントとストレングス視点																
8 相談援助の理念① ―ソーシャルワークの価値と原理・																
9 相談援助の理念② ―権利擁護・アドボカシーと尊厳の保持・ノーマライゼーションとインクルージョン																
10 倫理綱領と倫理的ジレンマ																
11 ソーシャルワークにおける歴史的人物の各自口頭発表 日本：源流																
12 ソーシャルワークにおける歴史的人物の各自口頭発表 日本：基礎確立期～現代																
13 ソーシャルワークにおける歴史的人物の各自口頭発表 諸外国：源流																
14 ソーシャルワークにおける歴史的人物の各自口頭発表 諸外国：基礎確立期～現代																
15 まとめ ソーシャルワークとは何か 理念・歴史を考える																
ラ	A:知識の定着・確認	○	・グループディスカッション・口頭発表を通じて、単なる講義ではない					工夫 その他	・学びの到達度を把握するために、毎回の講義終了時にショート・ライティングを課す。							
ク	B:意見の表現・交換	○	問題解決型の学習を目指す。													
ニ	C:応用志向	○														
テ	D:知識の活用・創造	○														
グ																
時間外学習の内容と時間の目安	準備 次回のトピックについて調べ学習をする (10h) 事後 口頭発表の準備をする (10h) 事後 ショートライティングを書くことで復習を行う (10h)															
教科書	教科書を指定しない															
参考書	福祉士養成講座編集委員会(編) 『新・社会福祉士養成講座第6巻 相談援助の基盤と専門職 第3版』中央法規出版 2015															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	ショートライティング	30%	○	○	○	○										
	口頭発表	70%	○	○	○	○										
注意事項																
備考	なし															
リンク	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)										
H0305302		相談援助の基礎と専門職Ⅱ(The Foundation of Social Work ProfessionⅡ)				相談援助技術系										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	2	福祉健康科学部	前期		氏名 柴留里美 E-mail sldome@oita-u.ac.jp 内線										
授業の概要	ソーシャルワーカーの役割・意義やソーシャルワークの概念について探める。さらに、今日的な議論としてのソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術についての理解を助として、ソーシャルアクションの方策について理解する。															
具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10									
目標1	社会福祉の概念と実践との関係を理解すること。						○									
目標2	ソーシャルワークの概念を理解すること。						○									
目標3	ソーシャルワーク実践の構成要素を理解すること。						○	○								
目標4	ソーシャルワーク実践の共通基盤(理念・原則・価値)を理解すること。						○	○								
目標5	ソーシャルワークのソーシャルアクション方法についての理解を深めること。						○	○								
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 ソーシャルワークの機能																
2 ソーシャルワークの構成要素																
3 ソーシャルワークの各構成要素の機能と役割(1)																
4 ソーシャルワークの各構成要素の機能と役割(2)																
5 ソーシャルワーク理論の最近の動向(1)																
6 ソーシャルワーク理論の最近の動向(2)																
7 ソーシャルワーク実践における価値と原理																
8 ソーシャルワークの倫理・専門職論																
9 ソーシャルワーカーの倫理的ジレンマへ事例を通して																
10 ソーシャルワーク実践とソーシャルアクション																
11 ソーシャルワーク実践とソーシャルアクションの実際 子ども・ジェンダー分野の口頭発表																
12 ソーシャルワーク実践とソーシャルアクションの実際 障害分野の口頭発表																
13 ソーシャルワーク実践とソーシャルアクションの実際 高齢分野の口頭発表																
14 ソーシャルワーク実践とソーシャルアクションの実際 地域福祉分野の口頭発表																
15 ソーシャルワーク実践と課題とまとめ																
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	自ら考える力を養成するため、グループワーク、事例を調べて発表するといったアクティブラーニングを用いる。					工夫 その他の	ショートライティングを書き、思考力と書く力を養成する。							
	B:意見の表現・交換	○														
	C:応用志向	○														
	D:知識の活用・創造	○														
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学習	次回のトピックについて調べ学習を行う(10h)														
	事後 学習	口頭発表の準備をする(10h)														
		ショートライティングを書き、思考力と書く力を養成する。(15h)														
教科書	教科書を指定しない															
参考書	福祉士養成講座編集委員会(編) 『新・社会福祉士養成講座第6巻 相談援助の基礎と専門職 第3版』中央法規出版 2015															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	ショートライティング	30%	○	○	○	○	○									
	口頭発表	70%	○	○	○	○	○									
注意事項																
備考																
リンク	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)									
H030S303		相談援助の理論と方法Ⅰ (Social Work Theory and Method Ⅰ)					相談援助技術系									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	課・限	担当教員										
選択	2	2	福祉健康科学部	後期		氏名 長谷川真司 E-mail hasegawa@yamanaguchi-pu.ac.jp 内線										
授業概要 ソーシャルワークは、社会福祉の実践体系として展開される専門的活動であり、その理論と方法について講義する。相談援助の理論と方法Ⅰでは、ソーシャルワークの基本的な視点、ソーシャルワークの対象や援助関係および展開過程などの学習を通して、基本的な専門的技術を理解し実践活動としてのイメージ化ができることをめざす。また、現在のソーシャルワーク実践において重要である地域を基盤としたソーシャルワーク（総合的かつ包括的な相談援助）の動向も踏まえ理解することをめざす。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10								
目標1	人と環境の交互作用に関して理解する。						○									
目標2	ソーシャルワークの対象について理解する。						○									
目標3	ソーシャルワークの援助関係について理解する。						○									
目標4	ソーシャルワークの展開過程について理解する。						○									
目標5	地域を基盤としたソーシャルワークについて理解する。						○									
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 オリエンテーション、【講義】ソーシャルワークとは（地域を基盤としたソーシャルワークの視点）																
2 【講義】ソーシャルワークの構造と機能①																
3 【講義・演習】ソーシャルワークの構造と機能②																
4 【講義】人と環境の交互作用																
5 【講義・演習】ソーシャルワークにおける援助関係①																
6 【講義】ソーシャルワークにおける援助関係②																
7 【講義】ソーシャルワークの展開過程①																
8 【講義・演習】ソーシャルワークの展開過程②																
9 【講義・演習】ソーシャルワークの展開過程③																
10 【講義】ソーシャルワークの展開過程④																
11 【講義】ソーシャルワークの展開過程⑤																
12 【講義】地域を基盤としたソーシャルワークの理解と実際①																
13 【講義】地域を基盤としたソーシャルワークの理解と実際②（コーディネーションとネットワーキング）																
14 【講義】地域を基盤としたソーシャルワークの理解と実際③（社会資源の活用・調整・開発）																
15 【講義】まとめ																
ラーニング	A:知識の定着・確認 ○ 演習 B:意見の表現・交換 ○ C:応用志向 D:知識の活用・創造					工夫 その他	・授業の効果的な進捗のために、実践事例、臨床例の分析と考察を取り入れる。									
時間外学習の内容と時間の目安	準備 授業内容に関連した参考文献等を予習する(15h)。演習の準備をする(3h)。 事後 授業で学んだ内容について復習を行う(15h)。関心を深めたいテーマについてさらに学びを深める(3h)。															
教科書	授業中に配布するプリント等を使用する。															
参考書	最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座12『ソーシャルワークの理論と方法 〔共通科目〕』中央法規 最新社会福祉士養成講座6『ソーシャルワークの理論と方法〔社会専門〕』中央法規															
成績評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
課題レポート①	30%	○	○													
課題レポート②	30%			○												
課題レポート③	40%				○											
その他																
評価割合																
注意事項	H日常生活のなかで人と環境について関心を持ち、新聞や関連の文献講義など行ってください。															
備考	授業の内容は予定ですので、変わる可能性があります。															
リンク	URL															

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の 実務 経験	在宅介護支援センターソーシャルワーカーとしての実務経験がある。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																										
H030S501		相談援助実習指導Ⅰ(Leading of Social Work PracticumⅠ)					実習系																																																																																																																										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																																																																																																																											
選択	2	2	福祉健康科学部	前		氏名 工藤修一他 E-mail takamine@oita-u.ac.jp 内線 7947																																																																																																																											
授業の概要 社会福祉士受験資格取得に係る実習の事前学習、事後学習を行う科目である。事前学習では、ソーシャルワーク実践の基礎的理解を土台に、実習生としての姿勢や当該実習分野の理解促進を図る。事後学習では、各福祉分野の利用者の生活課題について、環境との関連からその生起要因について分析をする。																																																																																																																																	
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照) <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 実習体験を通して、ソーシャルワーカーとしての基盤を確立できる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 ソーシャルワーカーに必要な価値・知識・技術を体系的に列挙できる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 利用者の生活課題を環境因子から判別できる。</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr><td>目標4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>目標5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>目標6</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>目標7</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>目標8</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>目標9</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>目標10</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 実習体験を通して、ソーシャルワーカーとしての基盤を確立できる。	○										目標2 ソーシャルワーカーに必要な価値・知識・技術を体系的に列挙できる。	○										目標3 利用者の生活課題を環境因子から判別できる。		○									目標4											目標5											目標6											目標7											目標8											目標9											目標10										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																							
目標1 実習体験を通して、ソーシャルワーカーとしての基盤を確立できる。	○																																																																																																																																
目標2 ソーシャルワーカーに必要な価値・知識・技術を体系的に列挙できる。	○																																																																																																																																
目標3 利用者の生活課題を環境因子から判別できる。		○																																																																																																																															
目標4																																																																																																																																	
目標5																																																																																																																																	
目標6																																																																																																																																	
目標7																																																																																																																																	
目標8																																																																																																																																	
目標9																																																																																																																																	
目標10																																																																																																																																	
授業の内容																																																																																																																																	
1 ソーシャルワーク実習の意義と目的																																																																																																																																	
2 ソーシャルワークの共通基盤の基本的理解																																																																																																																																	
3 ソーシャルワークの実践分野の基本的理解																																																																																																																																	
4 介護や保育など関連分野の基本的理解																																																																																																																																	
5 実習課題の明確化と実習計画書作成																																																																																																																																	
6 実習記録の内容と記録方法																																																																																																																																	
7 プライバシー保護など実習生に求められる倫理																																																																																																																																	
8 事前訪問																																																																																																																																	
9 事前訪問を踏まえての実習で必要とされる知識・技術などの整理(配属実習・実習巡回)																																																																																																																																	
10 実習体験の全体的省察																																																																																																																																	
11 児童福祉分野のソーシャルワーク実践の基本的理解																																																																																																																																	
12 障害者福祉分野のソーシャルワーク実践の基本的理解																																																																																																																																	
13 高齢者福祉分野のソーシャルワーク実践の基本的理解																																																																																																																																	
14 見学実習(更生保護施設)																																																																																																																																	
15 見学実習(児童相談所)																																																																																																																																	
ラーニング目標	A:知識の定着・確認 ☐ 実習施設ごとのグループ学習、並びに講義での成果の報告 B:意見の表現・交換 ☐ C:応用志向 D:知識の活用・創造					工夫その他																																																																																																																											
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修 疾病(障害)別の利用者特性(7h) 事後 学修 実習経験のリフレクション(8h)																																																																																																																																
教科書	使用しない。																																																																																																																																
参考書	指定しない。																																																																																																																																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																																					
	実習レポート	80%	○	○	○																																																																																																																												
	実習グループ報告	20%	○	○	○																																																																																																																												
注意事項																																																																																																																																	
備考																																																																																																																																	
リンク	URL																																																																																																																																

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の専任 経歴	医療ソーシャルワーカー (7年)

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)													
H030S502		相談援助実習Ⅰ(Social Work PracticumⅠ)					実習系													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員														
選択	2	2	福祉健康科学部	前期		氏名 工藤修一ほか E-mail takaminie@oita-u.ac.jp 内線 7947														
授業の概要	本科Ⅰは講義及び演習形式の「相談援助実習指導Ⅰ」と連動しており、狭義の「実習部分」となる。「利用者を知る」をキーワードとして、利用者との関わりを通して、その特性や生活課題などを学ぶ。同時に、専門職として求められるマナーなども含めた基礎的な素養を涵養する。																			
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	実習分野の全体像を網羅的に説明できる。																			
目標2	各機関ごとの障害特性を説明できる。																			
目標3	専門職(組織人)としての基礎的な行動ができるようになる。																			
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	実習プログラムは配属先によって異なる。																			
2																				
3																				
4																				
5																				
6																				
7																				
8																				
9																				
10																				
11																				
12																				
13																				
14																				
15																				
ラーニング	A:知識の定着・確認 ☐ 実習のためすべてアクティブラーニング B:意見の表現・交換 ☐ C:応用志向 D:知識の活用・創造					工夫その他の														
時間外学習の内容と時間の目安	準備 相談援助実習指導Ⅰ参照 事後 相談援助実習指導Ⅰ参照																			
教科書	使用しない。																			
参考書																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	実習レポート	100%	○	○	○															
注意事項	社会性をもって実習に臨むこと。																			
備考																				
リンク	URL																			

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の業務 経験	医療ソーシャルワーカー（7年）

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)									
H040S311		精神保健福祉相談援助の基礎(専門)(Psychiatric Social Work Fundamentals(Advanced))					精神保健福祉系									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	2	福祉健康科学部	後期		氏名 今村 浩司										
						E-mail imamura_k@seinan-jo.ac.jp 内線										
授業の概要	精神保健福祉士に期待される役割や、相談援助の定義・理念・形成過程・体系などについて解説し、他職種との連携について理解を促進する															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)										
目標1	精神保健福祉士が行う相談援助の概要と必要な知識及び態度について理解する					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する					○										
目標3	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する					○										
目標4	精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携(チームアプローチを含む)の意義と内容について理解する					○										
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 精神保健福祉士の役割と意義について理解する																
2 社会福祉士との相違点を知る																
3 相談援助における精神保健福祉士の専門性について考える																
4 精神障害者の権利擁護について(研究と資料作成)																
5 精神障害者の権利擁護について(グループ発表及び講評・講義)																
6 専門職倫理とジレンマについて考える																
7 ジレンマの解消と教育について(スーパービジョン研究と資料作成)																
8 ジレンマの解消と教育(上記発表と講評・講義)																
9 DVD視聴と考察(精神障害者の権利について)																
10 精神保健福祉士の専門性とチームアプローチについて理解する																
11 精神保健福祉士の専門性とチームアプローチ(事例作りと発表)																
12 精神保健福祉士の活動の広がりについて知る																
13 精神保健福祉士の活動の広がりについて(研究及び資料作成)																
14 精神保健福祉士の活動の広がりについて(発表及び講評・講義)																
15 総合的・包括的な課題に関する多職種連携と精神保健福祉士の役割																
ラック ユニ ティ ダ フ	A:知識の定着・確認 ○ 小グループ活動による課題研究と資料作成、発表を繰り返し、知識の定着や活用を促進し、意見交換及び発表によって表現力、発言力、応用力、対応力を養成する					工夫 その他										
時間外学習 の内容と時間 の目安	準備 学習	グループ発表のための研究及び資料作成は講義時間中には完了しないため、授業外時間は各項目において数時間以上														
	事後 学習	グループ発表のための研究及び資料作成は講義時間中には完了しないため、授業外時間は各項目において数時間以上														
教科書	中央法規出版「精神保健福祉士養成講座 精神保健福祉相談援助の基礎(専門)」の最新版															
参考書	講義内で説明する															
成績 評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10				
	資料作成及び発表までの過程	10%	○													
	発表内容	10%	○	○	○	○										
	期末テスト	80%	○	○	○	○										
合計100点中80点以上が合格(ただし出席3分の2以上が条件)																
注意事項	なし															
備考	なし															
リンク	URL															

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の 実務経験	精神科医療機関の相談援助職として20年、刑事施設にて精神障害受刑者支援10年、成年後見センター理事10年、社会福祉法人理事10年等

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																										
H040S312		精神保健福祉の理論と相談援助の展開I (Psychiatric Social Work I)				精神保健福祉系																																																																																																																										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員																																																																																																																										
選択	2	2	福祉健康科学部	前期		氏名 尾口 昌康 E-mail 内線																																																																																																																										
授業の概要 精神障害者を対象とした相談援助技術について、精神障害者の支援モデル、相談援助の対象者との援助関係について理解した上で、個別援助および集団援助の過程、技術を学ぶ。その際、個別援助では危機介入アプローチや生活支援、集団援助では、デイケアやSST（生活技能訓練）セルフヘルプグループ等の事例を用いて、実際の援助場面を想定して学習する。加えて、精神障害者と家族の調整及び家族支援の意義を理解し、その援助方法について学ぶ。さらに、スーパービジョンとコンサルテーションの意義と方法について理解する。																																																																																																																																
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 精神保健福祉士の業務内容及び支援対象について、自分の言葉で説明できる</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 精神障害者の人権について正しく理解し、その大切さについて、自分の言葉で説明できる</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 障害者福祉の基本理念と意義および障害者総合支援法における精神障害者の福祉の概要について、自分の言葉で説明できる</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 精神保健福祉士の業務内容及び支援対象について、自分の言葉で説明できる	○										目標2 精神障害者の人権について正しく理解し、その大切さについて、自分の言葉で説明できる	○										目標3 障害者福祉の基本理念と意義および障害者総合支援法における精神障害者の福祉の概要について、自分の言葉で説明できる	○										目標4											目標5											目標6											目標7											目標8											目標9											目標10										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																						
目標1 精神保健福祉士の業務内容及び支援対象について、自分の言葉で説明できる	○																																																																																																																															
目標2 精神障害者の人権について正しく理解し、その大切さについて、自分の言葉で説明できる	○																																																																																																																															
目標3 障害者福祉の基本理念と意義および障害者総合支援法における精神障害者の福祉の概要について、自分の言葉で説明できる	○																																																																																																																															
目標4																																																																																																																																
目標5																																																																																																																																
目標6																																																																																																																																
目標7																																																																																																																																
目標8																																																																																																																																
目標9																																																																																																																																
目標10																																																																																																																																
授業の内容																																																																																																																																
1 オリエンテーション 精神保健医療福祉の歴史と動向																																																																																																																																
2 我が国の精神保健医療福祉の制度の背景とパラダイム転換																																																																																																																																
3 諸外国の精神保健福祉の変遷1																																																																																																																																
4 諸外国の精神保健福祉の変遷2																																																																																																																																
5 心理社会的リハビリテーションの展開、当事者活動の支援																																																																																																																																
6 精神保健福祉士の歴史的役割づけ																																																																																																																																
7 近年の精神保健福祉の理念																																																																																																																																
8 精神保健医療福祉施策の動向1																																																																																																																																
9 精神保健医療福祉施策の動向2																																																																																																																																
10 精神障害者支援の実践モデルの意味と内容																																																																																																																																
11 治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル																																																																																																																																
12 地域を基盤とした相談援助の展開																																																																																																																																
13 「ケースの発見」から「終結・アフターケア」に至る一連の過程1																																																																																																																																
14 「ケースの発見」から「終結・アフターケア」に至る一連の過程2																																																																																																																																
15 まとめ																																																																																																																																
ラーニング	A:知識の定着・確認		○	①正確な知識が定着しているか確認するため、②意見の表現・交換を通じて、事例をどのように理解しているかを確認するとともに、援助方法について他者に的確に伝える言語化スキルを高めるため、毎回、学生に意見や説明を求める。		工夫 その他																																																																																																																										
時間外学習	準備 事前に配布される資料を読んで解らないところを事前に調べる(15h)。事例についてはその概要をジェノグラムやエコマップ、タイムライン等を用いて整理し、理解した上で授業に臨むこと(15h)																																																																																																																															
事後学習	知識の定着を図るために、学んだ内容についてノートを整理すること(15h)																																																																																																																															
教科書	特に指定しない。配布プリントとスライドを用いて授業を実施する																																																																																																																															
参考書	授業内で適宜紹介する																																																																																																																															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																																				
成績評価の方法及び評価割合	期末試験	70%	○	○	○																																																																																																																											
	授業中の発言内容や参加姿勢等	30%	○	○	○																																																																																																																											
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位修得が必須条件である。																																																																																																																															
備考																																																																																																																																
リンク	URL																																																																																																																															

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	精神科病院のソーシャルワーカー(精神保健福祉士)として、12年間の勤務歴あり
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	精神科病院勤務時代に、精神保健福祉援助実習の指導者として各大学・専門学校から配属された実習生の指導を担当した。
実務経験を いかした教 育内容	医療機関での実務経験を活かし、事例を用いた具体的なソーシャルワーク業務についての講義が可能である